

科目名	博物館実習Ⅱ(再) (FD002500)
英文科目名	Museum Work Training II
担当教員名	徳澤啓一（とくさわけいいち）
対象学年	4年
単位数	2.0
授業形態	実験実習
授業内容	1～6回 事前の指導 館園実習、実習館園、館務、博物館利用者の接遇、館園見学、見学館園について解説する。 7～14回 実務実習 館種に応じた専門的・技術的な実務に関するものを行う。 15回 中間まとめ 本実習の学習内容を復習しつつ、「実務実習」の準備学習を実施する。 16～29回 館園実習 学内外の館園等の現場における業務に関するものを行う。 30回 総括 本実習の学習内容を復習しつつ、「博物館学芸員」の就職事情等の最新事情を講義する。
準備学習	準備学習 初回の講義時には、必ずシラバスを熟読し、授業内容等を確認しておくこと（標準学習時間60分）。 2回目以降 館園見学、実務実習、館園実習では、博物館学芸員課程担当教員に加えて、館園の学芸員、本学兼任教員、非常勤講師が指導にあたり、それぞれの指示に従って、準備学習を行うこと。準備学習に要する時間に関しては、実習内容を館園実習記録簿に記入し（標準学習時間60分）、事前配付資料を読んでおくこと（標準学習時間120分）を目安とする。
講義目的	見学を含む学内実習や館園実習での現場体験を通し、多様な館種の実態や学芸員の業務を理解し、実践的能力を養う。博物館学芸員関連科目の教育課程編成・実施の方針Cに最も強く関与
達成目標	1. 実務実習(資料の取り扱い、展示、博物館運営等の実務習得)、事前・事後指導(実習全体の指導、館園実習に関する指導)] 2. 館園実習(博物館における実務体験) 以上の項目について、その意義を理解し、説明することができることを目標とする。
キーワード	授業内容に記載
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	提出課題 40%（達成目標1～2）、2回の小テスト60%（達成目標1～2）によって、成績を評価する。得点率 60%以上の場合は「合格」、60%未満は「不合格」とする。
教科書	新時代の博物館学／全国大学博物館学講座協議会西日本部会編／芙蓉書房出版／ISBN9784829505519
関連科目	教養教育科目「考古学」及び「外国史」を履修することが望ましい。
参考書	講義中、適宜、指示する。
連絡先	徳澤啓一研究室（D2号館4階） 高橋亮雄研究室（B2号館1階） オフィスアワーはmylogで確認すること。 研究室の訪問に際しては、E-mail (curator_ous@outlook.jp) によって、事前に用件を簡潔に知らせること。その際、担当教員の都合を聞いた上で、指定された日時に訪問すること。
授業の運営方針	履修制限科目。履修制限に関しては、『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』を参照すること。止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。また、博物館学芸員課程では、最終段階である「博物館実習」において、外部の博物館で「館園実習」を行うことになる。当然のことながら、「館園実習」では、勤務態度及び来館者への接遇に関する資質が厳しく問われることとなる。そのため、平素の講義であっても受講態度に気を付けて臨んで欲しい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	講義中に課した提出課題に関しては、講義中の適切な単元において評価とコメントを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campus で配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間終了後の配布には応じない。 講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	博物館実習Ⅱ(再) (FD002510)
英文科目名	Museum Work Training II
担当教員名	徳澤啓一（とくさわけいいち）
対象学年	4年
単位数	2.0
授業形態	実験実習
授業内容	1～6回 事前の指導 館園実習、実習館園、館務、博物館利用者の接遇、館園見学、見学館園について解説する。 7～14回 実務実習 館種に応じた専門的・技術的な実務に関するものを行う。 15回 中間まとめ 本実習の学習内容を復習しつつ、「実務実習」の準備学習を実施する。 16～29回 館園実習 学内外の館園等の現場における業務に関するものを行う。 30回 総括 本実習の学習内容を復習しつつ、「博物館学芸員」の就職事情等の最新事情を講義する。
準備学習	準備学習 初回の講義時には、必ずシラバスを熟読し、授業内容等を確認しておくこと（標準学習時間60分）。 2回目以降 館園見学、実務実習、館園実習では、博物館学芸員課程担当教員に加えて、館園の学芸員、本学兼任教員、非常勤講師が指導にあたり、それぞれの指示に従って、準備学習を行うこと。準備学習に要する時間に関しては、実習内容を館園実習記録簿に記入し（標準学習時間60分）、事前配付資料を読んでおくこと（標準学習時間120分）を目安とする。
講義目的	見学を含む学内実習や館園実習での現場体験を通し、多様な館種の実態や学芸員の業務を理解し、実践的能力を養う。博物館学芸員関連科目の教育課程編成・実施の方針Cに最も強く関与
達成目標	1. 実務実習(資料の取り扱い、展示、博物館運営等の実務習得)、事前・事後指導(実習全体の指導、館園実習に関する指導)] 2. 館園実習(博物館における実務体験) 以上の項目について、その意義を理解し、説明することができることを目標とする。
キーワード	授業内容に記載
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	提出課題 40%（達成目標1～2）、2回の小テスト60%（達成目標1～2）によって、成績を評価する。得点率 60%以上の場合は「合格」、60%未満は「不合格」とする。
教科書	新時代の博物館学／全国大学博物館学講座協議会西日本部会編／芙蓉書房出版／ISBN9784829505519
関連科目	教養教育科目「考古学」及び「外国史」を履修することが望ましい。
参考書	講義中、適宜、指示する。
連絡先	徳澤啓一研究室（D2号館4階） 高橋亮雄研究室（B2号館1階） オフィスアワーはmylogで確認すること。 研究室の訪問に際しては、E-mail (curator_ous@outlook.jp) によって、事前に用件を簡潔に知らせること。その際、担当教員の都合を聞いた上で、指定された日時に訪問すること。
授業の運営方針	履修制限科目。履修制限に関しては、『教職・博物館学芸員課程履修の手引き』を参照すること。止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。また、博物館学芸員課程では、最終段階である「博物館実習」において、外部の博物館で「館園実習」を行うことになる。当然のことながら、「館園実習」では、勤務態度及び来館者への接遇に関する資質が厳しく問われることとなる。そのため、平素の講義であっても受講態度に気を付けて臨んで欲しい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	講義中に課した提出課題に関しては、講義中の適切な単元において評価とコメントを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campus で配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間終了後の配布には応じない。 講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	